



政府統計

報道関係者 各位

平成 31 年 3 月 15 日

【照会先】

政策統括官付参事官付保健統計室

室長 森 桂

室長補佐 阿部 幸喜

受療行動統計係（内線 7518）

（代表電話）03（5253）1111

（直通電話）03（3595）2958

平成 29 年受療行動調査（確定数）の結果を公表します

厚生労働省では、このほど、「平成 29 年受療行動調査（確定数）」の結果を取りまとめましたので公表します。

受療行動調査は、医療施設を利用する患者に対し、医療を受けた時の状況や満足度などについて、今後の医療行政の基礎資料を得ることを目的に、3年ごとに実施しています。

この調査結果は、「平成 29 年受療行動調査（概数）」（平成 30 年 9 月 4 日公表）について、「平成 29 年医療施設静態調査」（平成 30 年 12 月 27 日公表）及び「平成 29 年患者調査」（平成 31 年 3 月 1 日公表）とのデータ結合・再集計により、概数であった数値を確定数とし、さらに患者調査の調査項目とのクロス集計により新たな図表を追加したものです。

【調査結果のポイント】

○自覚症状（主な傷病分類別、外来患者のみ）

受診した病気や症状を初めて医師に診てもらった時に「自覚症状がなかった」者は、「新生物<腫瘍>」で45.5%、「内分泌、栄養及び代謝疾患」で45.2%と高くなっている。

悪性新生物<腫瘍>についてみると、「自覚症状がなかった」が多かったものは、「気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>」64.3%、「前立腺の悪性新生物<腫瘍>」59.7%、「肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>」55.6%となっている。【13頁 図12】

○生活習慣上の助言や指導（主な傷病分類別）

受診した病気や症状の治療や療養に関し、医師や看護師、管理栄養士などから生活習慣上の「助言や指導を受けた」外来患者は56.3%で、を受けた助言や指導の内容では「栄養・食生活」が55.2%、「身体活動・運動」が48.3%となっている。

主な傷病分類別にみると「助言や指導を受けた」が高いのは「内分泌、栄養及び代謝疾患」75.3%、「循環器系の疾患」65.5%となっており、それぞれ主な傷病別では、「糖尿病」83.9%、「脳血管疾患」67.4%となっている。【16頁 表7】

詳細は、別添概況をご覧ください。